

『JASP で今すぐはじめる統計解析入門』 第1～4刷 正誤表

この度は、標記書籍をお買い求めいただき誠にありがとうございました。

標記書籍内に、下記の通り誤りがありました。訂正し、深くお詫び申し上げます。

【第1～2刷の誤り】（第3刷以降は修正済）

ページ数	位置	誤	正
54	(2) 手順のフロー図内	被験者間要因	被験者内要因
54	(2) 手順のフロー図内	被験者内要因	被験者間要因

【第1～3刷の誤り】（第4刷以降は修正済）

ページ数	位置	誤	正
56	下から5行目	分散分析や回帰分析では、Q-Qプロットと呼ばれるグラフによって正規性を有するか判断します。	分散分析や回帰分析では、Q-Qプロットと呼ばれるグラフによって正規性を有するか判断します*。 （*脚注 分散分析では、t検定と同様にShapiro-Wilk検定により正規性の判断をしても問題ありません。その場合には、メニューにある「記述統計」をクリックし、「統計量」にある「シャピロ・ウィルク検定」を選択してください。）
60	「結果の報告例」の表中 1か所	<i>N</i>	<i>n</i>
79	「結果の報告例」の表中 3か所	<i>N</i>	<i>n</i>
87	表の上1行目	「結果」の「事後検定」に多重比較の結果が出力されます。今回は「ダン（Dunn）」の結果を確認しましょう。	「結果」の「事後検定」に多重比較の結果が出力されます。今回は「ダン（Dunn）」の結果を確認しましょう*。 （*脚注 JASP16.2.0では、Dunnの多重比較の結果（ <i>p</i> 値）は片側検定によるものとなっています。そのため、JASP0.16.2にて、両側検定の結果（ <i>p</i> 値）を求めたい場合には、得られた <i>p</i> 値を2倍してください。なお、現在のJASP0.18.3では、両側検定の結果（ <i>p</i> 値）が出力されています。）
88	「結果の報告例」の表中 1か所	<i>N</i>	<i>n</i>

ページ数	位置	誤	正
122	下から 8 行目	上の図の場合、第 2 因子で乱数によるシミュレーションに基づく固有値 (▲) のほうが大きくなるので、因子数は 1 となります。	上の図の場合、第 4 因子で乱数によるシミュレーションに基づく固有値 (▲) のほうが大きくなるので、因子数は 3 となります。
129	図の下 1 行目	今回の場合、固有値に基づく 1 以上なのは第 1 因子のみなので、因子数は 1 となります。	今回の場合、固有値に基づく 1 以上なのは第 1 因子と第 2 因子であるので、因子数は 2 となります。
129	図の下 4 行目	今回はスクリープロットと平行分析から導かれる因子数 2 で分析を進めていきます。	よって、今回は因子数 2 で分析を進めていきます。

P.122 スクリープロットの図

